

1. 調査報告概要表

作成日平成21年7月 31日

【評価実施概要】

事業所番号	3470204268
法人名	株式会社 サルート
事業所名	グループホームとまと
所在地	広島市安佐南区高取南一丁目11番43号 (電話)082-847-0304
評価機関名	特定非営利活動法人医療福祉近代化プロジェクト
所在地	広島市安佐北区口田南4-46-9
訪問調査日	平成21年7月24日

【情報提供票より】(21年7月 1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成15年8月1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	22 人	常勤	15 人, 非常勤 7 人, 常勤換算 18.8

(2)建物概要

建物構造	鉄骨造り 2階建		
	2階建ての	2階 ~	1.2階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000円	その他の経費(月額)	25,000円	
敷金	有(200,000) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	(無)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	350 円	昼食	650 円
	夕食	550 円	おやつ	円
	または1日当たり 1,500 円			

(4)利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	27 名	男性	10 名	女性	17 名
要介護1	6 名	要介護2	8 名		
要介護3	2 名	要介護4	5 名		
要介護5	6 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 81.6 歳	最低	68 歳	最高	98 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	山東クリニック・ゆず歯科医院・児玉医院・前田皮ふ科医院
---------	-----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

広島市の郊外に位置するグループホームとまとは交通の便が良く、ショッピングセンターや、大型のスーパーマーケットがあり、周辺には田畑もあり、広い敷地内に菜園があり野菜や果樹が植えられ収穫を入居者は楽しみにされている。事業者は地元の方で古くから住まれており、地域との交流は盛んで、地域行事に参加され、ホームからは地域福祉活動に活発に貢献されており、地域に密着したホームと言える。入居者と職員のあたたかいふれあいが入居者に安心感をもたらしている。職員は事業所の理念を目標に支援されている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回改善点や指摘はありませんでしたが、管理者、職員は、見直す機会と思われ、確かめ合い、入居者が穏やかで安心した生活が過ごせるよう信頼される介護サービスの提供に努められている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	各ユニットでのミーティング、全体ミーティングで話し合い、その都度見直す機会になって、会議の中で出し合い、確認しあう取り組みがみられる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は定期的に行われて入居者、家族、地域の代表、包括支援センターの職員、管理者、ホーム長、職員の参加がありホームからの行事報告をされ、幅広い立場の人の意見を聞きサービスの向上に努められている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	日ごろから家族と何でも言いやすい関係づくりをされ、信頼関係が築かれている。アンケート調査でも家族は安心されている。家族会や、家族からの意見や要望は必ず受け止め各ユニット、全体ミーティングで話し合い改善される。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	買い物や散歩の際の、地域の方との挨拶、地域の行事に参加され、ホームの行事にも協力されて地域の方と交流を持たれている。町内会の清掃行事にも参加されている。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	とまとのめざす理念を各ユニットで取組み、実践に活かされている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	隔週でユニットごと、全体ミーティングをされて理念を共有し、全員で意思統一を図り、具体的な取組みを話し合い確認されている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事に参加(夏祭り、運動会、秋祭り、とんど)され、散歩や買い物など出かけた際、挨拶をし地域の方と交流をされている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員で意義を理解し、日々の業務に活かされて質の向上に努められている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議には入居者、家族、地域の代表、包括支援センターの職員、事業者、職員の参加で開かれ施設の報告、意見提案があり、話し合いをされ、意見や要望は受けとめ、サービスの向上に活かされている。		

グループホームとまと

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	広島市、安佐南区の介護保険課に広報誌などで定期的に報告されている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	広報紙、とまとばたけや写真のアルバムを作成され、家族に送られ、日々の生活や様子が伝えられる。状況に応じてきめ細かく報告されている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の苦情、要望があれば運営推進会議で報告されている。今まで要望はあるが苦情はなく要望や意見は面会に来られた時、話し合いをされ受け止められている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は少なくし、各ユニットごとに決められ、馴染みの関係を大切にされて職員の質の向上の取り組みがされている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修には積極的に参加され、施設では技能委員会が年間研修計画を立案、実施され職員全員のスキルアップに取り組まれている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部との交流、勉強会にも参加できる機会を持ち、他の事業所の取り組みなどを学び、サービスの質の向上に取り組みがされている。		

グループホームとまと

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>家族の意向を聞き、入居者に穏やかな生活が送れるよう、家族と相談しながら対応されている。体験入居の利用も可能である。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>一人ひとりの生活のリズムに添えるよう、その方に合った支援がされ、家族と馴染みの関係をつくり、行事などに家族の協力を仰ぎ一緒に支えあうよう職員は取り組まれている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々の暮らしの中で、できるだけ一人ひとりの関わりを持ち、思いを把握して計画作成し支援されている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入居者、家族の意見を含め各ユニットで職員は意見や、アイデアを一人ひとりのニーズに合わせた介護計画を作成されている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月に1度の見直しが行われ、変化が生じた時は、家族と話し合い同意を得てサービスの変更が行われている。</p>		

グループホームとまと

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同一法人内の施設があり、リハビリ施設、カラオケ、大浴場を使用する事ができ、入居者の楽しみになっている		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医の診察、歯科、皮膚科の定期訪問診療、家族の希望される医療機関の支援、主治医の家族への説明、主治医の紹介で専門の医療機関への支援がされている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時、家族に重度化された場合の説明は十分にされ、入居者、家族の意向を尊重し恒常的医療行為が必要な場合を除いて出来る限りの支援はされる。24時間主治医との連携が取れる対応がされている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の尊厳を傷つけないよう言葉使いや、接遇に配慮された対応がみられた。個人情報厳重に管理されている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の生活の流れの中で、その日の一人ひとりのペースに合わせた、希望に添った支援がされている。		

グループホームとまと

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月1～2回の手作り食事は、とまとの菜園で採れた旬の野菜、果物を使って献立から調理まで入居者、職員は一緒に作られている。日々の生活の中で一人ひとりの持てる力を見極めて食事の準備、片付けを手伝っておられる。月1回は外出に出かけたり、食材業者によって出張握り寿司や、行事食を提供されている		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の希望に合わせた入浴をされ、同一法人内の施設の大浴場や近隣の入浴施設に行かれる事もあり、入居者の楽しみとなっている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	無理なく、その人らしい一日が過ごせるよう支援される。(散歩、買い物、手芸、絵手紙、お花)		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節の良い時期や天候を見ながら近くの公園へ散歩や、買い物等外出支援がされている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関は開錠され、各ユニットの出入り口はオートロックになっているが要望があれば開錠されている。家族は理解をされている。各ユニットで見守り支援に努められている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	夜間を想定しての避難訓練を年に2回消防署指導のもとに行われている。地域の方の協力が得られるよう、運営推進会議で協力を求められている。		

グループホームとまと

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分量のチェックは毎日記録されている。その方に合った刻み食等が提供されている。食べ易くしたり、飲み易くする工夫をしながら食事支援がされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広くて明るい家庭的な居間で、ソファ、テーブル、テレビ、和室があり、観葉植物が置かれゆったりとした共同空間ですごされている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の家具や生活用品、趣味で書かれている習字や絵の用具が持ち込まれている。		